

夢を叶える

2025. 2. 26

多くの人は、夢を抱きながら生きているのではなかろうか。よく、小学生などに、夢は何かと聞くことがある。子どもの頃には、いろいろな夢をもっていたはずである。だが、どれほどその夢を叶えられたであろうか。多くの人は、夢のままで終わってしまうのではなかろうか。

それが、わるいとは思わない。夢をもつこと、人生は、それだけで豊かになる。たとえ夢で終わったとしても、夢をもって生きるだけでも、その人生は豊かになる。

一方、誰しもが夢をもって、そこに憧れて努力していれば、それでいいと思っているという面もある。それでは意味がない。夢を現実にしなければ、がんばっている甲斐がないという考えもある。この場合の夢は、目標に近いように思う。

年が改まり、二か月が経とうとしている。新しい年を迎えると、誰もが一年の願いをもつだろう。初詣をして神仏に願いをかけるだろう。その願いは、頭に残っているだろうか。どれだけ、その願いのことを意識して行動しているだろうか。

夢と願いとは、どのように違うのだろうか。どちらも何かをしたいと願い望むことに違いはない。どちらかという、夢のほうが、より実現のむずかしいものを願うときに使われるように感じる。例えば、有名大学に入りたいと願うのと、有名大学に入るのが夢だというのとでは、趣が異なる。夢だと言っているほうが、困難な目標のように感じられる。夢の実現というのは、簡単なことではない。

「夢」という言葉が好きである。この漢字もいい。いろいろな考えはあるが、やはり夢はもっていることが大事なような気がする。その実現に向けて努力すること、行動していくことに価値がある。したがって、実現したほうがいいとは思いますが、実現しなくともよい。夢は夢のままで終わってもかまわない。

“念ずれば夢かなう”とも言う。きっと、夢のことを意識していれば、自然とその実現に向けて行動するようになるのだろう。叶うかどうかかわからないが、その夢に向かって努力する過程で、実は多くのことを身につけたり、人との出会いがあったりするのではなかろうか。一つの夢の実現に向けては、いくつかの目標があり、それらを達成していくことが、人の成長を促すように思う。だから、夢は大切である。

夢を叶えるというよりは、夢を叶えようとするのが重要である。夢を抱き続ける人生、それこそが素敵な人生である。